

中学生の交通安全に関する意識変化 ～自動車学校が実施する安全教室に着目して～

瀬見 洋平 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 谷川 尚己

キーワード：交通安全教室, 自動車教習所, 中学生

1. 緒言

平成24年に全国で起きた交通事故の内、徒歩での事故が3,767件に対し自転車での事故は6,510件も起こっていた。自転車の事故原因で1番多いのは信号無視だ。平成24年の全国交通事故件数は665,138件で、うち中学生の通学中の事故は10,637件あり、そのうち自転車での事故は半数以上の6,510件にも及ぶ。このことから中学生の自転車の乗り方について考えなければならない。そこで、八日市自動車教習所で行われている中学生対象の交通安全教室に着目した。本研究は、滋賀県東近江市の八日市自動車教習所で行われている交通安全教室に参加した中学生の意識変化を調査し、今後の生徒・児童の交通安全につなげていくことを目的とする。

2. 研究方法

八日市自動車教習所で行われている中学1年生対象の交通安全教室で、滋賀県東近江市のG中学校の1年生117名を対象に、全33項目のアンケートを安全教室実施前に各クラスで実施、全20項目のアンケートを安全教室実施後に各クラスで実施する。そのアンケートをMicrosoft Excelを用いてグラフ化した。八日市自動車教習所で行われた交通安全教室とは、自転車の乗り方や交通規則を学ぶ講義、更には実際に車と自転車を用いての事故現場を体験できるプログラムである。

3. 結果・考察

交通安全教室実施前は約35%の生徒が『ときどき思う』『よく思う』と回答していたが、交通安全教室後は約90%の生徒が『ときどき思う』『よく思う』と回答している。このことから、交通安全教室での体験を実際に見て、聞いて感

じることで事故の恐ろしさなどを知り、交通ルールを守ることの大切さを理解できたのではないだろうか。このように交通安全教室を実施することにより交通安全に対する意識が向上した。自転車に乗る1人ひとりが自転車の乗り方について考える必要があるのではないだろうか。今回は交通安全教室実施後すぐにアンケート調査を実施したが、交通安全教室の数ヶ月後にもう一度アンケート調査を実施し、交通安全教室で学んだことが行動化に結びついているかが大切であると考えられる。本研究の課題である。

4. まとめ

中学生が自動車教習所における交通安全教室に参加し、その前後にアンケート調査を行い、以下のような結果が得た。

- 1) 交通ルールを守ることが大切だと思う生徒が35.1%から93.1%に増加した。
- 2) 車道を2列になって走ることがとても危険だと思う生徒が23.1%から48.7%に増加した。
- 3) 2人乗りをすることがとても危険だと思う生徒が37.1%から59.6%に増加した。
- 4) ヘルメットをかぶらずに走ることがとても危険だと思う生徒が20.5%から42.7%に増加している。
- 5) 内輪差について理解している生徒が34.3%から76.1%に増加した。

引用・参考文献

学校の管理下の災害—24 基本統計 独立行政法人日本スポーツ振興センター
一般財団法人 日本安全教育普及協会
<http://www.jatras.or.jp/>